

宇宙基本計画工程表改訂に向けた提案

令和 7 年（2025年） 1 1 月 1 3 日

宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所

有人宇宙技術部門

国際宇宙探査センター



8.「宇宙科学・探査」における主な工程表改訂に係る変更提案

「宇宙科学・探査ミッションの進捗状況について」資料に基づく計画変更は具体的には以下。

◆ 打上げ等の時期の変更

- ① マイクロ波背景放射偏光観測宇宙望遠鏡（LiteBIRD）FY2032打上げ → FY2036打上げ
- ② 小惑星アポフィス（Apophis）に対する国際協力による探査計画に向けた検討、調整の推進→ 地球接近小惑星アポフィス探査計画（RAMSES）への参画FY2028打上げ

◆ 従前記載していなかった事業を記載

- ① 惑星探査小型実験機（OPENS-0）

（3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

年度	令和 5年度 (2023年度)	令和 6年度 (2024年度)	令和 7年度 (2025年度)	令和 8年度 (2026年度)	令和 9年度 (2027年度)	令和 10年度 (2028年度)	令和 11年度 (2029年度)	令和 12年度 (2030年度)	令和 13年度 (2031年度)	令和 14年度 (2032年度)	令和 15年度以 降
8 宇宙科学・探査 ①	JAXAの宇宙科学・探査ロードマップについて必要な見直しを行う[文部科学省]										
	【宇宙物理学】 大型の海外計画への、存在感を持った形での参画を目指す。JAXAや宇宙物理学分野の研究者のコミュニティが一体となった協力体制の構築、国際動向の情報収集、長期戦略の立案による、技術開発を推進。国際的な大型計画とも相補的でかつ独創的・先鋭的な技術を活用し、科学的にユニークな中・小型のミッションの創出を目指す[文部科学省]										
	戦略的に実施する中型計画に基づく衛星・探査機等（10年で3回）										
	X線分光撮像衛星（XRISM）の開発 ▲運用 打上げ										
	マイクロ波背景放射偏光観測宇宙望遠鏡（LiteBIRD）の開発 ▲運用 打上げ										
	主として公募により実施する小型計画に基づく衛星・探査機（2年に1回）										
	赤外線位置天文観測衛星（JASMINE）の開発 ▲運用 打上げ										
	戦略的海外共同計画										
	Nancy Grace Roman宇宙望遠鏡への参画 ▲運用 打上げ										
	系外惑星大気赤外線分光サーベイ衛星計画（Ariel）への参画 ▲運用 打上げ										

8 宇宙科学·探查②

3

8 宇宙科学·探查③

4

宇宙基本計画工程表の改訂に向け、9章、10章についてJAXAとして変更が必要と考えるポイントを以下に示す。（参考：次頁以降に線表の現状版を示す）

関連項目：（3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の想像
9 月面における持続的な有人活動
10 地球低軌道活動

【9 月面における持続的な有人活動】

- ① HTV-XによるISSへの物資補給機会を活用した技術実証の期間について、「10 地球低軌道」のHTV-Xの運用期間に合わせて2030年末まで延長（現行版は2028年末まで）。
- ② 月極域探査機（LUPEX）の打上げ年度を、ISROとの実施取決めにに基づき、2026年度から2028年度に変更。また、それに伴い、LUPEXにより取得したデータをその後の月面着陸機に活用する「着陸地点の選定等に資する月面の各種データや技術の共有」の期間について、2028年度まで延長（現行版は2026年度まで）。

【10 地球低軌道活動】

- ③ HTV-X 6号機について、NASAとの国際調整等の状況等を踏まえ追記。

年度	令和 5年度 (2023年度)	令和 6年度 (2024年度)	令和 7年度 (2025年度)	令和 8年度 (2026年度)	令和 9年度 (2027年度)	令和 10年度 (2028年度)	令和 11年度 (2029年度)	令和 12年度 (2030年度)	令和 13年度 (2031年度)	令和 14年度 (2032年度)	令和 15年度以 降	
9 月面に おける 持続的 な有人 活動①	【国際パートナーや民間事業者と連携した持続的な月面活動】											
	米国提案の国際宇宙探査計画(アルテミス計画)への参画[内閣府、文部科学省等]											
	ゲートウェイ居住棟への我が国が強みを有する技術・機器の提供					ゲートウェイの運用・利用						
	HTV-XによるISSへの物資補給機会を活用した技術実証					ゲートウェイ補給機によるゲートウェイへの物資輸送						
	月面探査を支える移動手段(有人と圧ローバ)に関する開発研究									運用		①
	車輪や走行系等の要素技術の開発研究・技術実証											
	着陸地点の選定等に資する月面の各種データや技術の共有											
	月極域探査機(LUPEX)の開発					運用						②
						打上げ						
	持続的な活動に不可欠なインフラ(測位通信、資源探査・採掘利用・電力供給、無人建設、食料生産)の研究開発[内閣府、国土交通省、総務省、文部科学省、経済産業省、農林水産省等]											
宇宙開発利用加速化戦略プログラム (スターダストプログラム) による基盤技術開発 [内閣府、国土交通省、総務省、文部科学省、経済産業省、農林水産省等]												
宇宙戦略基金による技術開発支援(再掲) [内閣府、総務省、文部科学省]												

年度	令和 5年度 (2023年度)	令和 6年度 (2024年度)	令和 7年度 (2025年度)	令和 8年度 (2026年度)	令和 9年度 (2027年度)	令和 10年度 (2028年度)	令和 11年度 (2029年度)	令和 12年度 (2030年度)	令和 13年度 (2031年度)	令和 14年度 (2032年度)	令和 15年度以 降
10 地球低軌道活動	日本実験棟「きぼう」の運用と利用拡大、成果の創出・最大化、日本人宇宙飛行士の活動[文部科学省等]							③			
	実験機材の共同利用などに関するISS関係各極との協議[文部科学省等]										
	民間の創意工夫を活用した方策の検討、ニーズの掘り起こし[文部科学省等]										
	月周辺や月面での活動、地球低軌道での民間活動を支える要素技術・システムの研究開発[文部科学省等]										
	ISSへの物資補給とその機会を活用した技術開発[内閣府、文部科学省等]										
	HTV-Xの開発・運用 <div><div>打上げ(1号機)</div><div>打上げ(2号機)</div><div>打上げ(3号機)</div><div>打上げ(4号機)</div><div>打上げ(5号機)</div></div> <div>ISS運用延長期間の経費分担に関する関係各極との協議[文部科学省等]</div> <div>4号機以降については、協議を踏まえつつスケジュールを調整する</div>										
	【再掲】 HTV-XによるISSへの物資補給機会を活用した技術実証[文部科学省等]										
	ポストISSの地球低軌道活動を見据えた取組[内閣府、文部科学省等]										
	ポストISSの地球低軌道活動の在り方の検討[内閣府、文部科学省等]										
	ポストISSに必要な技術の研究開発[文部科学省等]										
	国際的・国内的な法的枠組み、国際基準についての検討[内閣府、外務省、文部科学省等]										
								ポストISSの地球低軌道活動 [内閣府、文部科学省等]			
宇宙戦略基金による技術開発支援(再掲) [内閣府、総務省、文部科学省]											